

愛媛大学

平成20年度土木海洋会だより

— 第14号 —



Mine Engineering
 Civil Engineering
 Ocean Engineering
 Civil & Ocean Engineering
 Civil & Environmental Engineering

目 次

ごあいさつ	(会長 石井 敏量).....	1
学科だより	(副会長 環境建設工学コース長 氏家 勲).....	2
新任教員の挨拶	(岡崎慎一郎).....	3
新規役員の挨拶	(中国支部長 藤原 豪紀 土木56年卒).....	5
支部だより		
	(関東支部幹事長 薦田 光郎 土木52年卒).....	6
	(関西支部幹事長 大橋 健一 土木47年卒).....	7
	(中国支部幹事長 村下 耕荘 海洋54年卒).....	8
	(愛媛支部幹事長 栗原 弘和 土木2年卒).....	9
会員だより		
	(小渕恵一郎 海洋60年卒).....	14
	(玉井 秀子 環境建設14年卒).....	15
	(増田 真慈 環境建設16年卒).....	16
	(森本 稔 環境建設20年卒).....	18
同窓会報告	(山出 覚 鉱山38年卒).....	19
平成20年度総会報告		22
会計報告		24
事務局だより		26

平成20年度版名簿の発刊にあたって

会長 石井 敏量（土木45年卒）



愛媛大学土木海洋会の皆様方にはますます御健勝のこととお慶びを申し上げます。日ごろより、土木海洋会の活動につきまして一方ならぬご協力をいただいておりますことをここからお礼申し上げます。この度平成20年度版会員名簿が出来上がりましたのでご送付させていただきます。平成16年度から名簿発行を隔年としておりましたが、後述のような理由により5年ぶりに改めまして、毎年発行をいたしますので宜しくお願い致します。

さて、私、稲田先生の後を継ぎ愛媛大学土木海洋会の会長を仰せつかりまして、1年余りが経過いたしました。先般8月23日に開催されました総会におきまして報告されましたように、関東、近畿、中国、愛媛の四支部とも定例会のみならず、勉強会や工業会との合同講演会を開催されている支部もあり、活発な活動に敬意を表したいと思います。そうした中で、今年も第一の議題として取り上げられたのが会費の納入状況でありました。5年前に、名簿発行による費用負担の軽減をはかるべく隔年発行といたしました。その後、一時的に運営資金の改善も見られましたが、その後の各収支経過を詳細に検討致した結果、名簿発行の有無により会費の納入状況に顕著な結果が見られるようになり、運営資金も悪化してきております。この状況を再度打開するために、名簿発行は毎年行う事と致しました。ただし、内容表示の様式を多少変更し印刷業者の協力も得て印刷費用を大幅に削減するとともに、その他の経費の見直しも行い今後の改善に向けて努力していく次第でございますが、なお一層のご協力をお願い致します。

また、その他の意見としてある支部から提案されたことですが、現在の四支部にこだわらないで地域性を考慮して新支部を創ってはどうかというような意見もだされ、活発な意見交換もございました。本会も設立後14年目を迎え、会員数も三千数百名を超えて国内での分布範囲も当初とは比較できないくらい広範囲に及んでいます。そろそろ本部、支部含めて発展的な変革を考える時期が来ているのかなとも思います。

最後に、皆様方のご健勝と一層のご活躍を記念いたしますと共に、今後とも皆様方の変わらぬご協力とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

学科だより

土木海洋会副会長、環境建設工学コース長

氏家 勲



土木海洋会会員の皆様におかれましては、お元気で活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より、土木海洋会および環境建設工学科の発展のため、ご尽力・ご協力を賜っておりますことを、厚くお礼申し上げます。

環境建設工学科の近況を述べさせていただきます。まず、学科の教員の異動についてご報告させていただきます。昨年11月以降、退職、転出された方はおりませんが、4月から東京大学工学系研究科社会基盤学専攻博士後期課程を学位取得し修了された岡崎慎一郎助教が赴任されました。専門分野はコンクリート工学で、研究および教育において情熱をもって行っております。また、大賀水田生教授が理工学研究科評議員（工学系）として4月から2年間に渡って活躍されることになりました。

次に学生の就職状況について報告させていただきます。平成20年度の大学院修了予定者26名（留学生3名）で、就職先（内定を含む）は公務員1名、建設業7名、コンサルタント等7名、製造業2名、運輸・通信2名、その他が4名です。学部卒業予定者は79名で、進学・就職先（内定を含む）は大学院進学19名、公務員8名、建設業8名、製造業12名、コンサルタント等4名、その他19名、就職活動中8名です。学部生に関しましては大学院への進学者が例年より少なく、製造業および建設系でない民間会社に就職する者が従来と比べて多くなっています。

建設業界の置かれた状況は依然として厳しい状況にあり、上述のように卒業生の就職にも苦戦をしております。さらに大学院への進学者数の低下とともに環境建設工学科の受験者数の低下も重要な検討課題となっております。受験生の数を増やすためには受験システムの変更も1つの方法ですが、高校生にとって魅力ある学科にすることが最も効果的と思われますが、簡単には良いアイデアは出てまいりません。学科の魅力に関係いたしますカリキュラムにおいて、昨年ご報告いたしましたように平成21年度までの卒業生はJABEE認定コースの修了生となり、さらに平成22年度以降もJABEE認定されるよう受審準備をしております。反対に、耐震偽造問題の影響により平成21年度から現行のカリキュラムでは建築士の受験資格が得られないこととなり、種々の検討の結果、建築士の受験資格には対応しないこととしまし

た。しかしながら、このことはカリキュラムを現状のままにしておくことではありません。少子高齢化の進展、人口減少社会の到来、国内市場の縮小、社会保障関係費の増大、財政制約下での社会資本整備・維持などなど、今後は高度成長を支えてきた社会システムの維持が困難になることが見込まれることから、新たな時代に対応する人材を育成するためのカリキュラムとする必要があり、現在鋭意検討中があります。実社会でご活躍の会員の方々のご意見などは学科の将来構想の検討に大変参考になりますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健勝をお祈りいたしまして、学科の報告とさせていただきます。

~~~~~ 新任教員の挨拶 ~~~~~

着任のご挨拶

岡崎慎一郎



このたび、本年4月より、助教として環境建設工学科に着任いたしました。現在、建設材料開発学の教員として、20名の学生とともに、建設材料でも特にコンクリートを対象とし、研究を進めています。このようなすばらしい教育・研究の環境を与えて頂き、心から感謝しております。この場をお借りして感謝の意を申し上げます。

私の略歴を申しますと、2003年3月に京都大学工学部地球工学科土木コースを卒業、2005年3月に東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻修士課程を修了いたしました。その後、2008年3月に同博士課程を修了し、学位を取得いたしました。卒業論文では、水域環境工学研究室にて、混ざらない2液混層流の流動特性に関する研究として、実験と数値流体解析を、修士課程においては、RC橋梁の復元設計手法の確立と建設年代別の安全性能評価を行いました。そして博士課程においては、セメント硬化体のような微小空隙を有する物質における液状水の流動特性を分子レベルから解析を行い、ナノ～マイクロメートルオーダーの空隙における水の極めて特徴的なふるまいに関する構成則を立脚しました。

現在は、これまでに研究を重ねてきた微小空隙中の水分移動則をもとに、セメン

トの水和、発熱ならびに空隙組織形成を連成させるモデルの構築を行っています。また、このモデルを基礎として、新設および既設コンクリートの耐久性能予測が可能となる解析システムを開発したいと考えております。特に、既設コンクリートにおいては、建設当時の設計図書が残っておらず、コンクリートの諸元が不明である場合が多いため、耐久性能の予測に必要なパラメータを現場で直接的に評価しなくてはなりません。現在、解析システムの構築と平行して、現場でコンクリートの品質が直接測定可能である透気試験装置を開発しております。コンクリートの耐久性能と物質移動抵抗性は密接な関係を持っておりますので、透気に対する抵抗性が高いコンクリート構造物は、構造物の劣化の要因となる中性化やそれに伴う鉄筋腐食などが起こりにくいといえます。目標としては、現場での透気試験から空隙構造を同定し、その情報をもとに構造物の健全性の将来予測まで行いたいと考えております。透気性能はコンクリートの含水率や、表面から深部にかけての品質変化に大きな影響を受けるため、一筋縄ではいきませんが、大いにやりがいを感じております。

また、教育面においては、未だ実験実習の担当のみで、教壇に立つて行う講義の経験は、ほとんどありませんが、教育企画室主催の授業デザインワークショップに参加させていただくことによって、学生の心を引きつける講義の行い方や、魅力あるシラバスの作り方などを勉強し、いずれ行う講義への準備をしております。

大学を卒業してはまだ一年を経過していないような未熟者ではありますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

総会に出た感じたこと

藤原 豪紀 (56年土木卒)



このたび中国支部長に就任しました。若輩ですが、皆様、よろしくお願いいたします。

さて、はじめて総会に出た。中国支部での議論を受けて、倫理規定の制定あるいは会則の変更や外国人卒業生の扱いなどについて発言した。残念ながら、ほとんど一蹴された。ここでは紙面の関係もあるので、前者について簡単に述べてみたい。

公務員の人は、同窓会への参加を自粛するように、と役所から言われているようである。「あらぬ疑いを受けぬため」ということであろうか。他の支部でも状況は同じようである。したがって、それでも同窓会へ出席、ということなら、それは自己責任において、ということらしい。出席していただく会の方としてはそれを等閑視してよいのか。私の属する中国支部は、世間に後ろ指を差されるような活動は一切していない。他の支部も同様と思う。実質的に問題がないので、後は個人責任で、ということではよいのであろうか。

世間では「倫理」とか、「コンプライアンス」、「CSR」など、色々と言われている。一時の流行のように考えている向きもあるが、決してそうではない。予定では来年に“SR”の国際規格ISO26000が出る。“C”が取れている理由は、すべての団体・組織が対象となるからである。また、フランスのように、既にCSRの国家規格を設けている国もある。欧米の工学教育では、Engineering Ethicsが必須となっている。もちろん、JABEEでも同様である。その他、学会にも資格者団体にも倫理規定がある。大げさに言えば、「倫理の世紀」のような状況になっている。なぜであろうか。

余談であるが、私は、隣接法律資格者団体で何度か倫理の講師をしている。資格者団体では、法令遵守を超えて資格者や専門職業が持続可能な発展を図る戦略のひとつとして倫理を捉えている。もちろん、時代的・社会的・法的背景についても理解を深めている。

翻って、私たちの同窓会はそこまで考えているだろうか。元々、あらぬ疑いを抱かれている理由は建設業界側にある。本来なら、世間以上に勉強し、襟を正さなければならないはずだ。中国支部ではこのようなところまで議論が進んでいる。他の会でも是非、真剣に議論していただければ、と思う。なぜなら、私たちの会は、「土木海洋工学における技術の発展に寄与すること」、つまり社会的使命をもって存在

しているからである。

最後に、若い人たちは、同窓会活動の意味づけをして、活動するだけの価値がなければ参加しない、と考えていると聞く。それが本当なら、中国支部には参加するだけの価値がある。中国支部には、固い話から砕けた話、そしてゴルフにまでエキスパートがずらりと揃っている。雰囲気もリベラルである。

支部会員の皆様、会運営に当たっては温かいご支援・ご協力をお願いいたします。

~~~~~ 支部だより ~~~~~

## 土木海洋会だよりに向けて

関東支部幹事長 薦田 光郎（土木工学科52年卒）



はじめまして、関東支部で幹事長を仰せ付かって2年目になります薦田（コモダ）と申します。卒業後は大阪の土木コンサルタントへ就職しましたが、卒業後5年足らずでNECへ転職し、海外プロジェクトを20年余り経験し、現在では国内の防災及び消防システム関係の工事を担当しています。土木海洋会発足当時は、立場上海外出張が多く同窓会活動には一切参加出来ておりませんでした。5年程前に国内部門へ配置転換となり漸く腰を落ち着ける事が出来るようになり、関東支部の一員として諸行事に参加し始

めた次第です。

同窓会へ参加後は、卒業以来お会いしていなかった先輩や同期の友人と旧交を温めたり、多くの諸先輩方やかわいい後輩達と親交を深めることが出来、皆様方に感謝しています。また、会社で防災システムを担当している関係から、防災情報研究センター長の柏谷先生とは卒論のご指導を頂いて以来の再会を果たすことも出来、不思議な縁を心から喜んでいます。

同窓会を通じて活動の巾が広がったことを実感すると共に、良い意味で有意義に活用させて頂いておりますが、関東支部の日頃の活動の中では、諸行事への参加者の固定化や伸び悩み等、まだまだ工夫の余地が大きいのも事実です。

同窓会活動に参加し始めて日はまだ浅いのですが、関東支部では校友会や工業会

の各東京支部へ役員を出していますし、諸行事へも関東支部として協力を図っています。例えば、例年1月に就職活動の学生が就職課と校友会主催のバスで上京して、社会人との交流会が持たれますが関東支部からは常に20名前後が参加しています。さらに、一昨年には、農学部就職活動生を支援しNHK松山の四国羅針盤で取り上げられたこともありました。こう言った状況から、校友会や工業会と土木海洋会の位置付けや関係を見直す時期に来ているのではと実感しています。また、土木海洋会としても予算的に厳しい事態になってきており、学内でも珍しい学科単位での同窓会活動を再アピールすると共に、校友会や工業会の活動へ参画・貢献し、補助金を頂ける様道筋を付けることも一つの方向ではないでしょうか。

末筆ながら土木海洋会並びに会員皆様の益々のご発展とご健勝を祈念し、失礼致します。

## 近畿支部だより

土木海洋会近畿支部 幹事長 大橋 健一（昭和47年卒）



昭和47年卒の大橋です。昨年から近畿支部の幹事長を務めさせて頂いています。卒業して37年が経過し、メモリーの風化とともに物忘れがひどくなるばかりですが、学生時代の思い出は今でも鮮明に残っています。

在学中は、大学紛争による長期休講や高度成長期で、余り勉強をしなかったように思います。容易に就職できる時代でしたが、学生生活に物足りなさを感じて大学院に残りました。当時は大学院に残る学生が少なく、同級生の社会での活躍を見て勉学に励んだものです。卒業後は、兵庫県の明石にある国立高専に勤務し、都市システム工学科という土木系の学科で都市計画や交通計画を担当しています。愛媛大学と同様に国立高専も独法化され、職場としての厳しさを感じるこの頃です。

近畿支部の活動では、7月総会、1月新年会、5月懇親会ゴルフなどが主な行事です。総会や新年会では、大学本部からの来賓教員とともに、名誉教授で関西在住の豊國先生や稲田先生にも出席して頂いています。在学時の昔話のみならず新しい話題を数多く戴き、今もお多くの薫陶を受けています。

近畿支部の特色に、数年に一度開催される特別行事があります。京都の有名な寺で、一般には開放していないところの見学です。これまで、「京都仁和寺宿泊と夜桜見物」、「冬の東寺見学と懇親会」を行いました。現在は、京都五山の一つ建仁寺見学を計画しています。禅宗の大本山である建仁寺は、絵画・庭園・建築物などの文化財が豊富で、一般観光コースとは異なる見学と建仁寺塔頭での食事会の催しです。

私事になりますが、20年程前に「京都の寺や風景の美しさ」にはまり、何千枚ものスライドを撮った経験があります。数百年の時を経た古寺仏閣には、建立当時には想定できなかったことも沢山生じたと思いますが、今もなお立派に機能しています。時空を超えた古寺仏閣には、現在の社会や科学が見習うべき点が多くあるように思えてなりません。

近畿支部を立ち上げて13年になりますが、当支部においても参加者の高齢化が大きな問題となっています。先輩諸氏のご尽力と事務局の献身的な活動で支部が支えられています。同窓会活動に気楽に参加し、旧交を暖めると同時に交流の輪を広めて頂ければと思います。

## 寂しい支部総会をどうするか

中国支部幹事長 村下 耕荘（海洋54年卒）



平成20年度に支部の幹事長になりました。中国支部においては、支部総会への参加者はここ数年多くて10数名程度（中国支部会員数300人程度）であり、何とも寂しい限りです。しかも参加者はほとんどが年配者で、一番若い会員でも海洋平成3年卒の状況です。他の支部の状況はどうなのでしょうか。

参加者がなぜ少なくなったのでしょうか。土木海洋会の目的は会則により「会員相互の親睦を図るとともに、土木海洋工学における技術の発展に寄与すること」になってい

ます。

昔のように民間の勤め人と官庁の職員との交流がある程度自由であった時代には親睦を図ることは盛況だったのでありますが、現在はコンプライアンス等の関係でこ

のような交流は胡散臭い眼で見られがちです。特に自治体等の官庁の職員はオフィシャルな場としては参加しづらい状況になっているのではないのでしょうか。また、大学卒業後、土木海洋学と異なる分野に就職された人にとって当会はメリットがあるのでしょうか。

では、どのようなしたら、土木海洋会が盛り上がるのでしょうか、大変難しい問題です。会員は年齢的に23歳程度から60歳以上まで幅広い年齢層で構成され、上下間では親子以上の年齢差があり、趣味も志向も大きく異なっています。しかも、土木海洋学に関係しない就職者も存在します。このような状況下、総会に多くの若者を参加させる方法はあるのでしょうか。

「言うはやすし行うは難し」です。一つの方法として総会に参加者のモチベーションを高める場に変貌させることなど考えられます。モチベーションを高めるための方法として、単なる親睦の場ではなく、自分自身の仕事にヒントになる情報を年配者や先輩から得ることができる場に変えていくなど、皆で知恵を絞って考えていかねばならないと考えています。

## 愛媛大学土木海洋会 愛媛支部 活動報告

支部長 友近 榮治（土木S48年卒）  
副支部長 山田 康晴（土木S53年卒）  
幹事長 栗原 弘和（土木H2年卒）



愛媛大学土木海洋会会員の皆様におかれましては、ご活躍のことと存じ上げます。また、日頃より土木海洋会愛媛支部の活動にご理解、ご協力を頂きまして誠にありがとうございます。

土木海洋会だよりの紙面をお借りして、平成19年度の活動報告を致します。

# 【平成20年度役員紹介】

平成20年8月23日の支部総会より次年度の総会までの間、次に示します役員により、愛媛支部の運営を行ってまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

|       |              |                |
|-------|--------------|----------------|
| 支 部 長 | 友近 榮治（土木48年） | 南海測量設計(株)      |
| 副支部長  | 山田 康晴（土木53年） | 愛媛県            |
| 幹 事 長 | 栗原 弘和（土木2年）  | (株)四電技術コンサルタント |
| 幹 事   | 佐伯 正教（土木48年） | (株)四電技術コンサルタント |
|       | 飯田 和樹（海洋54年） | 四国小松フォークリフト(株) |
|       | 中尾 均（土木54年）  | 伊予鉄道株式会社       |
|       | 高橋 正雄（海洋55年） | 三井住友建設株式会社     |
|       | 福岡 修一（土木55年） | ショーボンド建設株式会社   |
|       | 永井 康生（土木56年） | 愛媛県            |
|       | 白石 研司（土木58年） | 株式会社平成工業       |
|       | 大倉 修（土木62年）  | 愛媛県            |
|       | 木下 尚樹（土木63年） | 愛媛大学           |
|       | 渡邊 政富（土木2年）  | 渡邊建設株式会社       |
|       | 山本 修嗣（海洋2年）  | 五洋建設株式会社       |
|       | 明日 孝憲（土海9年）  | 愛媛県            |
|       | 藤縄 涼子（環建18年） | (株)四電技術コンサルタント |
| 監 事   | 勝谷 雄三（土木49年） | 松山市            |
|       | 村上 浩司（海洋55年） | 芙蓉コンサルタント株式会社  |
| 顧 問   | 石井 敏量（土木45年） | 大成建設株式会社       |

なお、支部の運営やご意見などがございましたら、遠慮なく幹事長にご一報いただきたいと考えております。いただきました意見等を参考に、支部の運営をよりよいものにしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

## 【平成19年度のおもな行事の紹介】



### ★愛媛支部主催 ゴルフコンペ★

平成19年11月3日(日)にサンセットヒルズカントリークラブで開催されたゴルフコンペの集合写真です。

総勢15名で競われた結果は、山田康晴氏(土木53年)(前列の右から2番目)が優勝されました。

### ★平成19年度 忘年会★

平成19年12月1日(土)に伊予鉄会館において、23名の参加により行われました。

なんと、土木海洋会愛媛支部の忘年会が始まって以来、初めてゲスト以外の女性に参加して頂きました。

環境建設工学課を平成18年に卒業された藤縄涼子さんです。男性ばかりの会に参加して頂いた勇気は称賛に値するものです。今後よろしくお願いします。

例年より若干人数が少なかった忘年会でしたが、みなさんの近況を報告していただき、有意義な忘年会でした。

産官学の方々が気兼ねなく集える場所ですので、有意義な時間が過ごせることは間違いありません。今後の忘年会には是非とも参加のほどよろしくお願いします。(あまり固苦しく考えなくてもいいと思います。)



今後は、愛媛大学土木海洋会のホームページに活動報告を積極的に掲載し、同窓会の皆様に少しでも関心を持って頂けるようがんばってまいります。!!

愛媛大学土木海洋会

検索

以上、愛媛支部の活動報告を終わります。

## 「最近、思うこと」

小渕恵一郎（海洋60年卒）



本当に早いもので、今年で勤続22年目になってしまいました。私の勤める会社は、大学で学んでいたこととは全く縁もゆかりもない制御・計測機器の開発・製造・販売を生業とするメーカーです。そういう意味で、「土木海洋海だより」をお読みの大半の方と、私は少し違う世界に生きているかもしれません。あつという間の21年強ですが、その間、私は一貫して製品開発技術の道を歩いてきました。製品としては、高周波測定器、データ収集機器、工業用レコーダ、そして、フィールド機器（プラントで使用される流量計や伝送器）など様々な機器のソフトウェア開発を担当しています。10年ほど前から海外客先・メンバとの直接交流が始まり、5年ほど前からグローバル開発として、中国/北京やシンガポールの開発メンバとの共同開発を行ってきました。つまり、業界内の小さい範囲ではありますが、私は10年ほど前から開発のグローバル化に関係してきたのだと思っています。そういう私の視点から、近頃思うことを気ままに書かせていただこうと思います。

現在、私が率いている開発グループは日本に14名、北京に8名、シンガポールに6名の規模を持っています。このグループの年齢構成は、40代前半：5名、30代後半：3名、30代前半：6名、20代後半：14名、となっていて、かなり良い年齢バランスとなっています。理由は、海外のメンバに若い技術者が多いことで、20代後半のメンバ14名の半数以上は海外メンバです。このような状況下では、どうしても若い技術者の差や文化の違いを認識することが良くあります。

入社時から2年目ぐらいのスパンで同じ新卒を比べて見ると、個人の持つ優秀さに大きな差はないですが、業務を遂行するために必要なスキルの差には大きなものがあります。具体的には、3ヶ月ぐらいの教育後、4ヶ月目からのOJTで海外メンバは成果を出し始めます。一方、国内メンバはOJTで本格的に力を出し始めるのが1年後になる、という感じです。原因は、国内メンバは入社時点で直ぐに業務に役立つスキルがなく、これを身に着けるのに時間がかかってしまうからです。

私の会社は、日本企業であり、少なくとも現時点からある程度の間は日本人がその中核に存在し、会社をコントロールしていくことになると思います。これは開発でも同じと思っています。つまり、現在の20代後半の国内メンバは、早い段階で、

海外メンバを率いていく立場になることを求められることになります。私の世代では、先輩の背中を見て成長していくのが主流でした。つまり、時間をかけて、勝手に育っていました。しかし、彼らには、そんな余裕は与えられそうにありません。

他部署を含めて、若い技術者と話をする機会がある時に、よくこのような話をします。会社内の教育は順次整備されていきますが、それだけでは足りそうにないことを若い技術者に認識をしてもらい、「意識して、全てを吸収する姿勢」をとってもらいたいからです。

若い技術者たちは、私の世代よりも数段厳しい状況下での成長を要求されています。個人的には、十分成長する資質を彼らは持っていると確信しています。彼らにはシュガー社員になる余裕はありません。

## 大学の繋がり

玉井 秀子（環建14年卒）



何を書いてもいいからと原稿依頼をいただいたものの、実際に取り掛かってみると何を書けばいいのやら悩ましいもので……拙い文章となりますことをいきなりですがお詫びいたします。

伊福先生の研究室で大学院を修了してから、東京に来て社会人5年目となりました。ファシリティマネジメントという仕事をしている会社に就職して、オフィスビルや大学、病院などを様々な側面から総合的にいかにうまく運用していくか——というようなことを考える仕事に携わっています。建設コンサルタントに就職するつもりだった学生時分のことがどこか懐かしい感じです。とはいっても、土木出身者もいる業界です。まあ、河川感潮域の研究を修論で書いた人とは未だ出会ったことはありませんが。もし興味を持っていただけの方がいらっしゃれば、お時間のいいときにでもホームページ（東京海上日動ファシリティーズ株式会社）をチェックしていただけると嬉しいです。

大学を卒業してから強く思うことは、「人間関係が繋がるありがたさ」ですね。この5年、先輩後輩同級生と大学関係の方たちとは本当によく繋がっていることを感じています。研究室が同じだった先輩たちや学生の頃から仲良くしている友人たちにはその頃と変わらずお付き合いをいただいていますし、一方で学生の時にはあまり話す機会がなかった方たちとも、ふとしたキッカケから繋がって仲良くなった

りするもので、東京に来てからも時間をみつけては集まって愛媛の匂いたっぷりの賑やかで楽しい時間を過ごしています。また、同窓会（関東支部）に参加する機会も得られたことから、同じ学科出身の大先輩たちとも出会うことができ、例えば先生たちの若い頃のご様子など、いろいろなお話を聞かせていただいています。土木業界で、あらゆる方面でご活躍されてきた先輩たちの仕事ぶりのお話ってカッコイイですね。土木という仕事が本当に素晴らしい仕事なんだということを感じさせています。

大学の繋がりには、懐くべき温かみがあるんだろうと思います。いつでも機会があれば大学を訪ねたいと思っているし、伊福先生の居室がこれからも変わらずあって欲しいなんてことを勝手ながらいつもどこかしらで思っています。卒業して時間が経って、変わることも変わらないこともあります、それぞれに大切なことがあるのだらうと思います。

とにかく、みなさまがお元気でいらっしゃいますように！

## 土木は苦手ですが、「環境建設」って名前が好きだった増田です

増田 真慈（環建16年卒）



同期・同研究室だった皆さんはご存知かと思いますが、私は在学中「勉学」においてかなりの劣等生でした。要領のよさ故（？）留年こそ免れましたが、「だよりの原稿を書いてくれ」というお話を受けた時、この学科の卒業生はよっぽど照れ屋さんばかりで、連絡先を大学に申請していないのか、はたまたこの人選はあみだくじ的なもので、たまたま当選してしまったのか（宝くじは絶対に当選しないのに）理解に苦しみました。

※ 前置きで最低ノルマの800字越えを期待しましたが、この時点では全然文字数が足りていないので続けます。

自分は現在「KSB瀬戸内海放送」という、岡山・香川をメインの放送エリアとするテレビ朝日系列のテレビ局で、営業マンとして働いております。職業柄、かなり数多くの業種の皆様と接点があるので、各企業の特長、売り、悩みを共有することができます。そしてそこで得た情報が、この文章をたまたま読んでいる皆さんにお伝えできる唯一マシな情報だと考え、今回はそのネタでいきたいと思っています。

不景気といわれる2008年現在でも売れている商品・人気のある企業には共通の

キーワードがあります。

それは「ブランド」です。

当たり前だという声が聞こえてきそうですが、認められるには大変な苦労がある「ブランド」です。「ルイ・ヴィトン」や「バーバリー」に代表される装飾品メーカーだけでなく、例えば「フェラーリ」「ポルシェ」などの自動車、「ロレックス」など高級時計、「大和屋」「ふなや」などの温泉旅館、都会の高級ホテルで食べるディナーや高級キャバクラなんかもそうかもしれません。

これらの共通点は高価で安売りしていないということ。しかし実際それを購入する側の人間は、高価な理由をあまり分かっていないことも事実です。「何となくよさそうだから」、「知名度あるから」、「それを持っている（購入する・そこに行く）」と自分がワンランク上の人間に見られるから」など、値段に見合う価値を得ているとは思えない意見をよく聞きます。一般的に不景気になると安易な安売りに走りがちですが、長期的なブランド訴求においては全くの逆効果なので禁物です。学生時代、ブランド品とは無縁だった自分が語るのもおかしい話ですが。。。

さて、この「ブランド」ですが、モノに限ったことではありません。モテる奴がとことんモテて、モテない奴が全くモテない男と女の関係もそうですし、大学の講義もそうではないでしょうか。失礼を承知で事例を挙げますと、退官された稲田先生の「岩盤工学」は、試験がさほど難しくないにも関わらず、受講者の出席率が毎回非常に高かったことを覚えています。あれは稲田先生の気の効いたユーモアや、人柄や豊かな人生経験から出てくるオモシロイ話に人気があったからだと思います。結果、学生達は毎回出席している講義なので、単位を落とすわけにはいかないという心理が働きます。そして試験に向けてしっかり勉強するので、循環のよいスパイラルができます。稲田先生という「ブランド」のなせる技です。大学3回生の最後に研究室を選ぶ際もそうでした。ほとんどの先生方が難しくて堅い研究内容をプレゼンする中、ついていけずに寝ていたり、あまり話を聞いていなかった学生達は、プレゼンで大爆笑をとった畑田先生の研究室を選びました。具体的に何をするかはあまりわからないけど、オモシロイ畑田先生＝オモシロイ研究室ではないか、と興味を引かれたからです。人間力から醸成されたブランドです。

さて、長々としょーもない文章を読んでいただいた皆様、ありがとうございます。最後くらいはいい感じで締めたいと思います。

学んだ講義、研究とは無縁の社会人生活を送っている私ですが、「愛媛大学」という大学、「環境建設工学」という学科に在籍していたおかげで出会えた皆さんとの繋がりは、財産だと思っています。また、今後も大学・学科のOB・OG・在学生の皆さんと楽しくお付き合いができれば、嬉しく思います。

是非 [s-masuda@ksb.co.jp](mailto:s-masuda@ksb.co.jp) までお気軽にご連絡下さい。機会があれば楽しい酒でも飲みましょう。

## 社会人となって

森本 稔 (H20卒)



私は平成20年に愛媛大学を卒業し、今年から社会人1年目を送っております。現在はまだ研修中の身で日々勉強の毎日です。同期の人たちとも交流を深めつつ充実した日々を送っています。

今思うと6年前大学に入ったときも同じ様な気持ちだったのかもしれませんが。私は田舎から出てきて中学・高校と顔見知りの友達と過ごした中から大学に入ることになり、初めて会う学友たちとうまくやっていけるのか不安を抱えつつ入学しました。その後、授業について互いに教えあったり、たわいもない世間話をしたりし友人も増え、研究室に入ってから様々な年代の人やいろいろな考え方に触れる機会を与えられて充実した大学生活を送りました。社会人になり、新しい環境に身を置くことになって、大学入学当時のように不安に思うこともいろいろありましたが、同期の人たちや先輩方と交流するにしたがってそのような不安はなくなって行きました。これは、大学時代様々な人たちとの交流が新しい環境に馴染みやすくなる糧となっており、勉強だけでなく大学時代の様々な経験を今後も活かしていきたいと思います。

いろいろな人と交流する機会の一つに会社での研修がありました。私は建設機械の製造メーカーに就職し、研修を行う中でいろいろな人々の繋がりを見る機会に恵まれました。設計を行う人は、実際に製品を作る人たちにただ図面を渡すだけでなく加工品を見て、現場の人たちと話し合いながらその製品の制作の具合を確認したり、部品を製造する人たちも組立を行う人たちとその状況を話し合ったりしていました。一つの作業をするにしても実際は多くの人たちと関わっており、互いの状況を確認し、協力しながら進めており、人と人との繋がり重要さを実感いたしました。

私は、まだ社会人一年目なので今後も会社の人・お客様など様々な人々に出会う機会に恵まれると思います。出会って人々との繋がりを大切にし、これからの社会人生活をより有意義なものにしていきたいと思います。

## 鉾山38クラス会

山出 覚（鉾山38年卒）

今回のクラス会は、1泊2日で奈良・まほろば大和の国での開催になった。今、奈良市では、2年後の平城京遷都（710年）1300年祭に向け、マスコットキャラクターのせんとくん（遷都記念事業協会推奨）・まんとくん（商工会推奨）・なあむくん（仏教会推奨）達が競りあっている。2日間のクラス会を、我々年金生活者が如何に安い会費（23,000円は安くもないか？）で楽しむか。前もって見学箇所を下見して、行動予定・目標予算をたてる。7月30日昼過ぎJR奈良駅に集合し、昼は古都奈良の世界遺産を見学して、夜は日本古代史の勉強会を予定する。宿泊は、奈良ロイヤルホテルで役員をしている後輩の山下君（土木48年卒）にお願いして安くしてもらおう。

出席者は12名（卒業者16名中、まだ一人も欠けていない嬉しいクラスです）で、西は長崎から東は茨城からの参加となった。この日、京都駅より列車のポイント故障があり、東組の人が遅れ、予定より30分遅くの集合となり、移動はワゴン車と乗用車に分乗する。遅れの為、予定箇所の一箇所をとばし、まず、奈良県庁の屋上展望塔より奈良市内・東の若草山・西の生駒山・南の飛鳥方面・北の京都方面を一望する（最近一般公開され無料）。その後15時に、頼んでおいたNPOのボランティアガイド（安いが無料ではない）と、興福寺（鎌足が釈迦三尊像を安置した藤原氏の氏寺、法相宗の大本山、国宝館に安置された阿修羅像は天平時代の仏像とは思われない現代的な美しい若者の顔である）の五重塔（高さ50.1m、京都東寺55mに次いで2番目）の前で待ち合わせ、奈良公園・東大寺（聖武天皇により創建された、世界最大級の木造建築物の大仏殿・金剛力士立像が立ちあがる南大門・正倉院・二月堂・三月堂など）と巡り、国宝の建築物・仏像・書物など、日本の文化・歴史について説明を聞きながら散策する。奈良公園・浮御堂前と東大寺・大仏殿前で、記念の集合写真を撮る。

初日の見学を終えホテルに着くと、偶然ロビーで1年後輩の柳生君（鉾山39年卒）と会い、何年ぶりかで旧交を温める（我々の時代は、全員20人位の少人数クラスで1～2年の先輩・後輩とは同じ授業もあり、皆兄弟のようであった）。一風呂浴びて、日本庭園のある特別室で歴史の勉強会を始める。山下君推奨のシェフ特製中華料理「ヘルシーシノワ」の前菜を前に、日本史のプリント1枚と問題集2枚を全員に配ってみたものの、乾杯して杯を重ねるうちに、歴史や文化の話はどこへやら……？？？。学生時代の思い出などに花が咲き、問題集は自宅へ持ち帰り、後日幹

事から解答集を送り、各自で採点することとする。ドリンクも若い時なら、当然飲み放題が安くあがるが、我々古希に近いし、体調を壊している者も何人かいるので、どちらが安いかなんだ。安くあげる為、ビール・日本酒・ウイスキー・焼酎の単価を聞き、誰が何本飲むとか見積もってみた。どちらが得かどうか、悩みながら飲み放題コースで予約してしまった。……と悩んだ結果は、フリードリンクで正解であった。歳をとっても酒量は衰えない連中が、幹事の不安を消してしまった。宴席から部屋に帰っても、大部屋の一室に有志が集まり、山下君から差し入れの10年ものの紹興酒などで、深夜まで昔話やら……、これからの老後をどう生きるか……、などなど。

翌日は、奈良市役所で1300年前の古都平城京（長安の都をモデルにした都市国家）の大型模型を見学し（ここも無料）、次いで今年6月に胡錦濤主席が来日の折、立ち寄った唐招提寺（鑑真和上が唐から5度の渡航失敗と失明にめげず、12年費やし日本にたどり着いて建立した律宗総本山、金堂は天平の薨で有名）から薬師寺に向かう。薬師寺は玄奘三蔵の教えを引き継ぎ、天武天皇と持統天皇の夫婦愛によって創建された法相宗の寺院で、金堂には薬師如来・日光菩薩・月光菩薩が祀られている。我々が講堂に揃うと中堅僧侶が現れて、現代人の心のありようについての法話があり、全員神妙に聴く。また写経（般若心経）の勧めもあったが、2,000円もするし、時間がなかったので誰も手をあげなかった。（尤も、持ち帰り写経後送付の方法もあったが。）

時間に急かれて昼前に斑鳩の里、聖徳太子の理想の寺・法隆寺へ。飛鳥時代、仏教の受容をめぐる崇仏派の蘇我氏と排仏派の物部氏との熾烈な争いの中、蘇我の血を引く太子はじめ皇族・群臣が蘇我馬子にくみする。物部守屋の頑強な抵抗にあい3度も敗退するが、太子の軍功もあり守屋も戦死、合戦は終息する。崇峻天皇の後、最初の女帝・推古天皇と摂政の座についた20歳の聖徳太子が、大臣の馬子と共に飛鳥時代の最盛期をむかえる。飛鳥寺（法興寺）は最大豪族・蘇我氏の氏寺である。冠位十二階の制度・十七条憲法を発表、新しい都市構想を実現すべく法隆寺を建立したという。金堂・大講堂・五重塔・上御堂・西円堂・聖霊院・夢殿などの建造物や、釈迦三尊像・薬師三尊像・聖徳太子坐像・百済観音立像などの仏像や、玉虫厨子などなどの国宝も時間が少なく駆け足で見て、レストランへ。

昼食後13時半に早く帰る人のために王寺駅で一次解散する。

午後は、初代（紀元前660年）の神武天皇陵・天武天皇陵・持統天皇陵・文武天皇陵・飛鳥寺・蘇我入鹿の首塚・高松塚古墳・キトラ古墳・藤原京跡や卑弥呼（239年邪馬台国の女王）の墓ではないかと言われる箸墓古墳等を巡るべく飛鳥方面に向くも、道を間違え時間もなく、大和三山（天香具山・畝傍山・耳成山）を望みながら奈良市へ引き返す。もう1日あれば、ゆっくり古代ロマンの旅へとフィードバックすることができたのにとしつつ、J R奈良駅16時、2年後の次回クラス会に元気で再会することを約束し、また欠席者の体調回復を祈願して解散する。

翌日、京都府の協和ゴルフで1組のみのコンペをし、今回の予定全部を終了する。

出席者：田中、津田、津村、福永、藤原、本名、松岡、松下、水舟、宗片、山出、  
渡辺



## 平成20年度 愛媛大学土木海洋会 総 会 議 事 録

開催日時：平成20年8月23日(土) 午後3時～

開催場所：愛媛大学職員会館（朋友会館）

出席者数：30名

議 題

議 長：石井 敏量 会長

### 1) 平成19年度事業報告について

畑田幹事長より、総会資料－1に基づき、平成19年度中に実施された諸事業について説明がなされ、これらが全会一致で承認された。

### 2) 平成19年度決算報告について

畑田幹事長より、総会資料－2に基づき、平成19年度の決算報告がなされるとともに、この会計について松木監事より適正であることを認める旨の会計監査結果報告がなされ、これらが全会一致で承認された。

### 3) 平成20年度役員について

畑田幹事長より、総会資料－3に基づき、平成20年度役員（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

平成20年度の新役員は、以下のとおり。

○副会長：氏家 勲（教授）、藤原 豪紀（土56年）

○幹 事：村下 耕荘（海54年）

○評議員：山田 耕大（環19年）、高須賀俊信（環20年）、岡田 修平（環20年）

### 4) 平成20年度事業計画について

畑田幹事長より、総会資料－4に基づき、平成20年度事業計画（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

平成20年度に計画されている主な事業は、会員の住所調べ（個人情報掲載に関する意向伺を含む）、会員名簿および土木海洋会だよりの発行、会員および学科の親睦活動などに対する援助事業などである。会員名簿については、平成16年度から隔年の発行となっており、平成16年と平成18年には発行されていなかった。

しかし、会費の確保のためには名簿発行が必要との判断から、支出を隔年発行と同程度に抑える事を前提に、今年度も会員名簿を発行することとなった。(価格の面から行間を圧縮して見にくい名簿かもしれませんが、御了承下さい。)

#### 5) 平成20年度予算について

畑田幹事長より、総会資料－5に基づき、平成20年度予算（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

#### 6) その他

同窓会のホームページの活用を図る。このためのコンテンツを募集する。このwebの活用含めて、「身近な同窓会」を目指す。



平成20年度・愛媛大学土木海洋会総会（朋友会館）

## 事務局だより

### 1. 会費についての内規について

平成12年度より70歳以上の会員の会費は免除することとしております。また60歳以上の会員は終身会費として会費を一括払いをすることができるようになっておりますのでご活用ください。なお会員の方々の年齢は卒業年次により計算させていただいておりますことをご了承ください。

#### 会費についての内規

1. 会費は、年額3,000円とする。ただし、70歳以上の会員の会費は免除する。
2. 60歳以上の会員は、終身会費として一括払いをすることができる。終身会費は、60歳以上～65歳未満の会員に対しては、20,000円、65歳以上の会員に対しては、10,000円とする。
3. この内規の変更は、総会の議決による。

### 2. 同期会・研究室同窓会・職場班会等に対する補助金制度について

この制度は、同窓生の皆様に、同窓会活動を活発化していただくために設けられたものです。同窓生の親睦などの目的に活用していただきたいと思います。

#### 〈同期会・研究室同窓会・職場班会などに対する補助金制度〉

補助金額：出席者1名当たり1,000円を上限とする。

ただし、5名以上の会合であること。最高で5万までの補助とする。

#### 上記の補助金制度に対する細則

##### 〈細則1. 援助対象〉

同期生全員、研究室卒業生全員および職場班全員に案内状を送る場合を対象とする。ただし、研究室同窓会においては卒業論文指導教官単位でも可とする。

〈細則 2. 本部事務局への提出物〉

- 1 案内状 1 部（土木海洋会の会費納入催促の文をなるべく記載のこと）
- 2 最終出席者名簿 1 部（学科卒業生、氏名、勤務先を記載のこと）
- 3 集合写真 1 枚（日付入り）
- 4 住所変更者の報告（名簿住所と異なる卒業生のみで結構です）
- 5 土木海洋会だよりの原稿（後日に提出していただきます）

〈細則 3. 援助回数〉

同一組織による会合への援助は、年度内において 1 回とする。

上記の援助は、平成 9 年度より実施する。

問い合わせおよび申し込み先：愛媛大学土木海洋会 幹事長 畑田 佳男

TEL：089-927-9838 E-mail：hatada@dpc.ehime-u.ac.jp

（名簿に掲載の学内幹事の先生方でも結構です。）

### 3. ホームページについて

土木海洋会のホームページを開設しました。行事等の情報を掲載いたしますのでぜひご覧下さい。支部行事、クラス会の案内等のホームページへの掲載を希望される場合は事務局までご連絡ください。

<http://www.cee.ehime-u.ac.jp/~cee4/dokai/>

## 愛媛大学土木海洋会だより 第14号

---

発 行 日 平成20年11月20日

発 行 者 愛媛大学土木海洋会  
〒790-8577 松山市文京町 3 番  
愛媛大学工学部環境建設工学科内  
☎ 089-927-9850  
F A X 089-927-9851

郵便振替 加入者名：愛媛大学土木海洋会  
口座番号：01640-6-37779

銀行口座 加入者名：愛媛大学土木海洋会  
伊予銀行城北支店（支店番号150）  
普通口座 150-1-1231698

---